

Governor's Monthly Letter

G M

ガバナー月信
会長・幹事殿

Rotary
District 2710

2025-26 ROTARY
INTERNATIONAL
District 2710

Vol. **09**
2026.3

寛容

会長・幹事の皆さま、そして会員の皆さま、こんにちは。
ロータリーの創始者ポールハリスは、
世界中のロータリアンに何か一言だけ伝えたいことは？
と聞かれた時に「寛容であれ」と答えたそうです。
同期の2510地区 玉井ガバナーは次のように言っています。
『ロータリーとは、奉仕か？友情か？それとも、ビジネスか？
答えはすべて“イエス”です。
ロータリーは、同じ考えを持った人たちが集まる場所ではありません。
そして、その考え方の違いを無くすために努力するところでもなければ、
また答えを一つにするところでもありません。
ロータリーは「お互い違うことを認めながらも、
それでも共に歩むことを目指している団体」であって、
その土台となるものが「寛容」という事なのだと思います。』
最近「不慣れなもので至らないこともあるかと思いますが、
ロータリーの寛容の精神に免じて…」という
司会者の言葉を聞かなくなりましたが、
私は“何となく？”そのフレーズが好きなのです。

Enjoy Rotary

皆さんロータリーを楽しみましょう。



Contents

ポリビア水頭症治療プロジェクト	02	地区補助金事業報告 福山RC	12
第3回諮問委員会 報告	06	地区補助金事業報告 広島西南RC	13
広島大学ローターアクトクラブ紹介	07	地区補助金事業報告 広島城南RC	14
グローバル補助金事業報告 下関北RC	08	地区補助金事業報告 福山丸之内RC	15
グローバル補助金事業報告 広島北RC	09	還暦を迎えて	16
地区補助金事業報告 徳山東RC	10	地区RAC「第2回地区協議会」報告	18
地区補助金事業報告 下関RC	11	新会員紹介/会員の増減・出席率	19

《今月の特別月間》

水と衛生月間





ボリビア水頭症治療プロジェクト

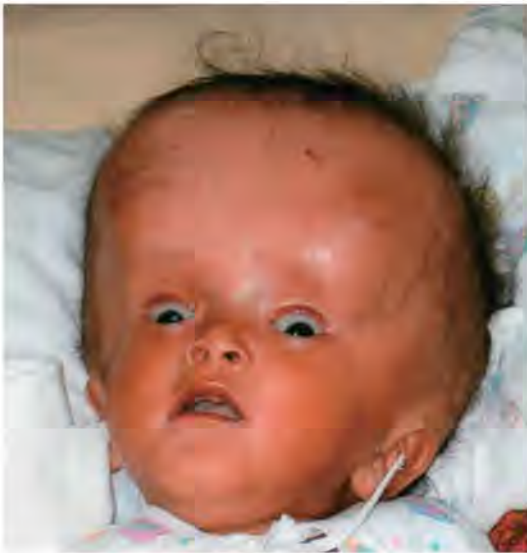
国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ガバナー
土肥 慎二郎

私の所属する東広島21ロータリークラブは、2004年よりボリビアでの水頭症治療に関わってきました。そしてこの事業は2710地区の中でも最も大きな(皆様の善意である寄付金を一番多く使わせていただいた)事業となりました。

ここで皆様にお礼を申し上げますとともに、その内容を報告いたします。

【目的】

貧困のために十分な治療が受けられないボリビアの水頭症患者の手術治療に用いるバルブを提供すること

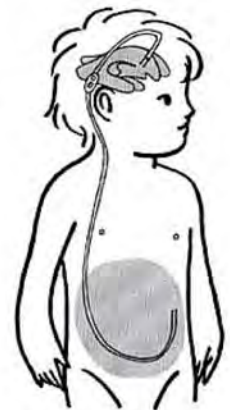


水頭症の標準的な治療であるシャント手術は、頭の中からおなかの中にカテーテル通して髄液を吸収させるという手術です。

この手術には髄液が逆流しないようにする弁(バルブ)が必要になります。

ボリビアでは意外なことに5歳未満の子供と65歳以上の高齢者は医療費がかかりません。医者も看護師も十分足りています。足りないものは医療材料であり、お金のない人はそのために治療が受けられない状況です。

そこでロータリーがこれを援助しようということになりました。



【始まりは…】

2002年10月、JICAの研修で広島に来ていたRI第4690地区、南米ボリビアのチュキアーゴ・マルカRCの会員が、川妻二郎ガバナー(2002-03)にボリビアの保健医療または識字率向上教育に関するプロジェクトの共同立ち上げを打診、東広島21RCで検討することになりました。

2003年2月東広島21ロータリークラブ初代会長、大原憲太郎氏がボリビアを訪問しチュキアーゴ・マルカRCと協議しました。

同クラブの日本人ロータリアン長谷川幸雄氏は、それ以前よりボリビアにおける水頭症患者の現状を改善する方法を模索しており、両者の考えが一致しこのプロジェクトを立ち上げることとなりました。



ボリビアで現地のマスコミの取材に答える大原初代会長 (2003年2月)

【方法】



ボリビアでは、当時子ども1000人のうち3人が水頭症を発症していたが、地域住民の認知度は低く多くの子供たちが放置されていました。

そこでポスターや看板を作成して地域住民への水頭症の啓蒙活動を行ないました。

患者の情報を、病院やソーシャルワーカーと共有して患者の審査（貧困層かどうか等）を行い、バルブを直接病院に引渡し、さらには治療効果の判定も行ないました。



筆者がボリビア訪問(2009年3月)

【ロータリー財団の補助金】

- 【同 額 補 助 金】 MG23783(2004年7月～2007年6月) MG62679(2007年7月～2008年8月)
 MG67543(2008年9月～2010年4月) MG72318(2010年5月～2011年8月)
 MG75528(2011年9月～2013年4月) MG78715(2013年5月～2014年6月)

総額249,690ドル バルブ数824個

※MG67543、MG75528については、援助国側クラブを親クラブの西条RCに依頼

- 【グローバル補助金】 GG1421638(2014年7月～2017年6月)

総額 85,250ドル バルブ数320個

- GG1757564(2017年8月～2022年1月)

総額164,000ドル バルブ数415個

※南園義一元RI理事(2004-06)、田原榮一ガバナー(2016-17)の呼びかけで、ロータリー財団設立100周年を記念して多クラブ合同での補助金申請を行う。

合同グローバル補助金申請 賛同クラブ

- 光RC 徳山RC 徳山東RC 徳山セントラルRC 周南西RC 岩国中央RC 柳井RC 広島西RC
 広島廿日市RC 広島陵北RC 広島安佐RC 広島城南RC 広島西南RC 西条RC 尾道RC 因島RC
 福山RC 福山東RC 福山南RC 三次RC

- GG2456588(2024年3月～2026年3月)

総額140,200ドル バルブ数322個

※現在も継続中です



【バルブ1000個達成セレモニー】



ロータリー財団設立100周年にあたる2017年5月、ボリビア・ラパスにてバルブの提供が1000個を超えたことを記念するセレモニーが行なわれました。会場には、ロータリアン、医療関係者、マスコミ、患者家族など約100人が集まりました。

【効果】

期 間：2004年7月から2026年3月 (21年6ヶ月)
患者の数：1881人
要した金額：639,140ドル

この活動は首都ラパスのみならず、4690地区全体、つまりはボリビア全土の水頭症患者に対して行われています。

また現在は、患者にも金額の一部を負担していただき、現地の企業からの協力を得て、今後の持続的なバルブの提供を可能とするシステムの構築を行っています。



【あしがき】

この20年、長いようであつという間だった気がします。

この事業に関わったのは、単なる偶然なのか？それとも、必然だったのか？今でもよくわかりません。またグローバル補助金を用いたロータリーの国際奉仕活動としてふさわしいものかどうか、私自身判断がつきません。それでも当初より、歴代地区ガバナーや財団委員会の皆様にご助言とご協力をいただきました。また、自クラブはもちろん、親クラブ、そして地区内クラブのご協力をいただきました。

一番嬉しかったのは、ボリビアに長谷川幸雄さんという素晴らしい友人が出来たことでした。彼は何回もこの地区にやってきては、2710地区の皆さんに感謝の言葉を述べておりました。2016年にロータリー最高の名誉であろう「超私の奉仕賞」を受賞されましたことは、私にとっても誇りであります。

また昨年の国際協議会では、4690地区ガバナーのカルメンさん(女性)とも話す機会がありました。ロータリーの国際性をあらためて感じたところでした。



それから2011年の東日本大震災の際には、ボリビアの地区大会で義捐金が集められ、その小切手が送られてきました。2293ドル、額は少ないですが、このような小さなことがロータリーの目指す世界平和につながることを願わずにはられません。



この事業は、すべて2710地区のロータリアンの善意があったからこそ出来た事業です。あらためて皆様に感謝を申し上げます。



第3回 諮問委員会報告

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 地区代表幹事

奥谷 求

(東広島2IRC)

2025～2026年度第3回諮問委員会が2025年12月18日(木)15:30よりホテルグランヴィア広島で開催されました。

最初に土肥ガバナーより2025～2026年度の報告があり、その内容は、まず会員動向について、広島新世代RCが22名のチャーターメンバーで創立されたこと、また、地区会員数は2025年11月現在で3,155名となり同7月期首より107名純増しているが、今後減少していく傾向があり、安心できないと述べられました。

公式訪問等については12月9日で予定していた71クラブが終了した事など報告がありました。

国際奉仕委員会関連では、韓国第3690地区大会が2026年4月23日～24日に韓国高湯市で、台北国際大会が2026年6月14日～17日に台北ドームなどで開催されると報告されました。

青少年奉仕委員会関連では、RYLAが2026年4月4日～5日の間、江田島市で開催予定である事、RA,IAの各行事について内容などが、また、YEについて派遣学生の途中リタイヤなども含め活動状況が報告されました。

次にロータリー財団、米山記念奨学会の活動状況、IMの開催予定、地区会計中間報告などの報告がありました。

地区大会報告としては、10月19日の東広島市での本会議で登録者1,618名により盛大に開催された事などを挙げられ、関係各位のご尽力、ご協力に改めて感謝の意を述べられました。

そしてオープン例会やロータリー奉仕デーin下関海響マラソンについて状況、結果などの報告がありました。

ウクライナとの国際共同委員会については、土肥ガバナーより2710地区の同委員会への参加を諮問委員会に上程され、出席諮問委員の方々のご意見などを伺い、結果、参加する事が了承されました。

次に脇ガバナーエレクトより次年度地区運営体制などが提示され、公式訪問予定、地区内RC周年一覧、IMの開催予定、地区資金などが報告されました。

そして、会長エレクト&地区チームラーニングセミナーを2026年3月15日(日)ホテルグランヴィア広島で、クラブリーダーシップラーニングセミナーを同年4月26日(日)広島国際会議場でそれぞれ開催予定である事を述べられました。

青少年交換派遣学生、ロータリー財団奨学生については面接、選考を実施し、それぞれ合格者を公表されました。

これらの報告に対し、諮問委員の方々より地区組織について各委員会の組織の統合など見直しも必要なのはとの意見があり、今後検討されることになりました。

次に土肥ガバナーより諮問委員会に上程されていた余剰金の使途、グループの再編について地区戦略計画委員長の杉川PGより検討結果の報告があり、余剰金の使途については物価高騰などの影響でこのままいくと数年で使い果たしてしまう可能性もあり、新たな支出をできるほど余裕はないのが現状で、会員が極端に少ない危機クラブへはガバナー補佐の裁量で金銭的な支援はできないが、数クラブが共同で事業が展開できるよう工夫して頂きたい、又、グループ再編については単なる数合わせではなく、各グループ・各クラブの意向や歴史的背景などを鑑み、直ぐに結論を出すのではなく、数年かけて調整、検討する事が必要ではないかとの見解が出され、その方向性は参加者の皆様の賛同が得られました。

最後に田原PGより26～27年度地区ローターアクト代表から、友好地区との国際交流、広島大学RACをホストクラブとしての年次大会の開催、チャリティー活動を地区として開催する事の「3つの実現したい事」の相談を受けられた事の報告があり、諮問委員会の方々より、意見、思いなどを伺い、それぞれの項目に対し、希望実現のため、引き続きRCの理解と援助、地区のサポートの必要性など今後ともRACに積極的にいかかわって行くとの認識で一致した。



広島大学ローターアクトクラブ紹介

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 広島大学RAC 会長
藤原 純
(広島大学RAC)

広島大学ローターアクトクラブ会長の藤原 純(ふじわら すなお)です。

簡単に自己紹介をさせていただきます。私は2023年11月にローターアクトクラブへ入会し、2024-2025年度および2025-2026年度のクラブ会長を務めております。岡山県出身で、現在は広島大学経済学部3年生としてファイナンスを専攻しております。本年3月から約半年間、中国・重慶大学へ留学する予定です。

私が海外留学を決意した原点には、広島大学ローターアクトクラブで留学生メンバーと関わった経験があります。例会や日常的な交流を通じて、多様な価値観や文化背景に触れる中で、日本の外に目を向けて学ぶことの重要性を強く意識するようになりました。特に、言語や文化の違いを越えて意見を交わす中で、自身の視野が広がっていく感覚を得たことが、留学を志す大きなきっかけとなりました。こうした経験を踏まえ、国際情勢に不安を感じる面もありますが、現地での学修と交流を通じて、ローターアクトで培った国際理解をさらに深めたいと考えております。

【広島大学ローターアクトクラブについて】

当クラブは2021年に創立し、本年度で5周年を迎えました。広島大学が国際交流に力を入れていることから、毎年留学生メンバーが在籍し、多文化環境の中で活動している点が大きな特徴です。国籍や文化的背景の異なる学生が一堂に会し、互いを尊重しながら活動できる環境は、当クラブの強みであると感じております。

活動にあたっては、提唱クラブである東広島21ロータリークラブ様をはじめ、多くの皆様から温かいご支援を賜っております。学生主体のため未熟な部分も多々ございますが、日頃よりご指導いただいていることに、心より感謝申し上げます。

本年度のクラブ目標は「**HURAC**」です。これは「Hiroshima University RAC」の頭文字を用いたもので、

H: 広がる

U: Unlimit(自由に、縛られない)

R: Revolution(革命)

A: 明るく

C: Creative/Connection

という意味を込めています。既存の枠にとらわれず挑戦する姿勢を大切に、人とのつながりを通じて成長できるクラブを目指しております。

【主な例会活動】

当クラブでは「国際交流×社会人交流」を活動の軸としております。



① Nightシリーズ

こちらは当クラブ創設当初から継続している例会です。留学生メンバーが自国の文化や社会について紹介し、食文化も共有することで、楽しみながら相互理解を深めることを目的としています。今年度は「Caribbean Night」と題し、カリブ海地域の歴史や文化、音楽について紹介してもらいました。普段触れる機会の少ない地域への理解を深めると同時に、活発な意見交換が行われ、メンバー同士の交流促進にもつながりました。

② 社会人交流会

ロータリークラブや他ローターアクトクラブの社会人の方々をお招きし、仕事観やキャリア形成についてお話しいただく例会です。就職活動を控えた大学生にとって、社会人のリアルな経験談を直接伺える貴重な機会となっています。今年度は東広島21ロータリークラブより3名の方にご協力いただき、経営者の視点から意思決定や責任について学ぶことができました。

【今後の展望】

広島大学ローターアクトクラブは、ほとんどのメンバーが最大4年間、留学生は半年間もしくは1年間と在籍期間が限られ、円滑な引き継ぎや会員数の安定が課題です。今後は活動記録の体系化や役割分担の明確化を進め、誰もが参加しやすく、継続性のあるクラブ運営を目指してまいります。大学生だからこそ持てる行動力と柔軟性を活かし、ローターアクトの魅力と価値を次世代へと繋いでいきたいと考えております。

今後とも、広島大学ローターアクトクラブへのご指導ご支援のほど、よろしく申し上げます。



グローバル補助金(GG2454056)事業報告〔下関北RC〕 台湾花蓮メノナイト・クリスチャン病院での心疾患検査支援

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 下関北RC ロータリー財団委員長
山根 康男
(下関北RC)

当クラブのグローバル補助金事業につきまして、先ず、各年度のガバナー様、地区R財団山本委員長様(当時)、地区事務局のお力添えに感謝申し上げます。また、2710地区の皆様には、貴重な地区補助金(DDF)を利用させて頂き、心よりお礼申し上げます。今後も「世界で良いことをしよう」に向け、努力を継続してまいります。ありがとうございました

時系列を踏まえ下記の通り報告をさせていただきます。
【プロジェクト名】台湾花蓮メノナイト・クリスチャン病院(MCH)への心疾患検査支援プロジェクト
【プロジェクトの背景】花蓮県は急峻な山岳地が多く、医療機関も少ない状況。近年心筋梗塞患者が増加している。検診の受診を促し、また疾患の早期発見のため高度な検査機器が必要。

【プロジェクトの内容】※収支については別表参照

- ①MCHに、超音波診断装置(GE社製:LOGIQe)寄贈
- ②住民に対する健康啓蒙セミナー開催
- ③心疾患予防パンフレット作成・配布

【プロジェクトの経過】

- ①2021/6/15:グローバル補助金打診の花蓮RCより案件について連絡あり。
当クラブ内で2022-23年度の創立50周年を記念して、グローバル補助金事業にチャレンジしようと気運が高まり、姉妹クラブの台湾花蓮RCに打診していました。
- ②2022/3/23:地区補助金によるグローバル補助金地域社会調査申請書提出、7/1補助金決定通知
地区R財団委員のアドバイスを頂き申請書を作成提出しました。補助金は決定したものの、コロナ禍で渡航できない状態が続きました。
- ③2022/11/17~20:地域社会調査のため台湾現地調査(8名参加)。花蓮県衛生局、MCH他視察。12/15報告書提出。
渡航が可能になり、花蓮訪問。3日間の現地調査の結果、補助金プロジェクトを立ち上げることに致しました。報告書を作成し、グローバル補助金の申請準備に取り掛かりました。
- ④2023/4/1:当クラブ創立50周年記念式典時、花蓮RCと合意書調印
記念式典で来日頂いた花蓮RCと、補助金事業計画・

予算について合意書を取り交わしました。また、姉妹クラブである韓国東馬山RCにも協力をお願いしました。

- ⑤2023/5/23:グローバル補助金DDF申請、7/4決定通知
DDF申請については、地区R財団委員長山本様(当時)から多くのアドバイスを頂きました。超音波診断装置を寄贈することだけではロータリーとして活動することにはならない、とか。「どんな汗」をかければ良いのか悩みましたが、地域住民に対する健康啓蒙セミナーの実施や健康パンフレットの作成・配布をすることとしました。
- ⑥2023/8/4:GG申請
GG申請は、「マイロータリー」の「私の補助金」欄から提出します。マニュアルの記入見本を手本に入力しましたが、慣れない英語記述は苦勞しました。
- ⑦2024/6/18:GG承認
申請後、財団からいくつかの問合せがありました。財団からのメールは、「マイロータリー」で登録したアドレスに届きます。花蓮RCの担当者はこの件を承知しておらず、情報共有とその調整に手間取り、承認に時間がかかりました。問合せは、プロジェクトの詳細必要性、予算の予備費項目の内容、財団からの送金先など。送金先については、花蓮RCは日本を希望されていましたが、財団から実施国(台湾)を指定されました。
- ⑧2024/8/22~24:GG実施打合せのため花蓮訪問(5名参加)
プロジェクトの実施は、財団から入金後に開始する必要があります。入金確認後訪問しましたが、計画時より2年経過していたため、超音波診断装置が機種変更になっており、更に円安により追加約5,500\$が必要となっていました。財団担当者に相談したところ、「財団は増額できない、クラブで対応下さい」。急遽当クラブと花蓮RCが追加負担を決定し、MCHには寄贈以外のセミナー実施等の協力をお願いしました。
- ⑨2024/12/10~12:超音波診断装置寄贈、住民に対する健康啓蒙セミナー、心疾患予防パンフレット配布(13名参加)
- ⑩2025/9/2:花蓮RC担当者より事業最終報告書提出、審査終了



←↑寄贈式



※別表 [GG2454056 収支決算] 単位:US\$

■収入		
下関北RC	6,200	
東馬山RC	1,000	
花蓮RC	2,000	
DDF	24,800	
WF	19,800	
	小計	53,800
	下関北RC(追加)	3,480
	花蓮RC(追加)	2,055
	合計	59,375
■支出		
超音波診断装置	59,375	
	合計	59,375



グローバル補助金(GG2567098)事業報告〔広島北RC〕 インドでの乳がん意識啓発および予備検査・治療過程管理

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 広島北RC 国際奉仕委員長
森 直基
(広島北RC)

当クラブ、サマール会員の知己を得て、数年前よりインドの幾つかのクラブと奉仕事業の実施可能性について検討を重ねていました。

この度、デカン高原に位置するマハーラーシュトラ州のブネ・ガンジー・ヴァバンRCと我々の思いが一致し、ブネ周辺農村部の女性を対象とした「乳がん啓発・健診・治療」プロジェクトをグローバル補助金事業として実施するに至りました。

2022年インド国立医学図書館で発表された研究論文「インドの乳がん：現状と今後の課題」では、乳がんの罹患が10年前よりもはるかに速いペースで増加していることを結論付けました。急速に公衆衛生上の危機へ発展しているにも関わらず、女性の身体について話すことに社会的抵抗が状況を悪化させていました。特に主体性が低いと言われる農村部女性ではその傾向が顕著と述べられていました。

そこで、予防的アプローチの採用と早期発見の活動を、少人数でありながらも地道に続けていたNGO Aasthaa Breast Careを支援することによって、我々の目的が最も効率的且つ有効に実現できると判断し、このNGO団体と共に活動を展開する事としました。活動の内容は、毎月1回100名を集客したスクリーニングキャンプの実施です。啓発セミナーと簡易検査の実施→異常発見者については後日精密検査を実施→手術・化学療法が必要な方にはその処置を実施、この流れを20ヶ月間行い、合計2000名にアプローチする活動です。

この規模でのスクリーニングキャンプは、NGO Aasthaa Breast Careでも経験はありません。また、NGOの医師や技師はボランティアで本業もあるため、効率的に負担感なく実施出来なければ、20ヶ月の継続が不可能となります。これらを解消するため、これまでにはNGO Aasthaa Breast Careが会場手配・受付・啓発セミナー・簡易検査・その後のフォローをすべて行ってきましたが、このプロジェクトでは、ロータリーのマンパワーで会場手配・受付・啓発セミナーをロータリアンが担当する事に加え、その後のフォローについても受診者情報の管理等に工夫を加え、この規模でのスクリーニングキャンプ実施を可能としました。

私達広島北RCメンバーは、2025年2月の第一回のスクリーニングキャンプに参加してきましたが、当日は実施場所となったブネ周辺農村部地域の小学校には、多くのメディアが駆け付け、参加者も想定の100名



スクリーニングキャンプ受付

交流会

を大きく超える盛況ぶりでした。

その反響は凄まじく、報道などで知った企業や地域の方々へスクリーニングキャンプ存在が周知された様です。そのお陰もあり、当初は毎月100名の集客に不安がありましたが、毎月100名を超える方が参加され、20ヶ月の計画ではありましたが、2025年末現在で1700名を超え、2026年2月には2000名を超える予定です。計画は大幅に短縮され、13ヶ月での完了となります。

そしてこの活動の肝は、スクリーニングキャンプ参加者や参加によって治療を受けた本人及び家族や周囲の人が、ボランティアとして、もしくは寄付者として活動を支える人になっている事です。参加者が増えるほど理解者が増える事で、持続可能性を担保しています。

この活動がインド全体にも波及し、良い変化を起こせるならば、ロータリーの資金力とマンパワーを活用した素晴らしい前例になりうると感じています。この活動の益々の発展を願っております。



乳がん啓発



地区補助金事業報告 [徳山東RC]

障がい者支援施設に車椅子用個別昇降テーブルを寄贈

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 徳山東RC 財団委員長

加茂 孝

(徳山東RC)

1. 事業内容の紹介

徳山東RCは、以前からクラブ独自で行っているチャリティオークションの売上金の一部を同じ市内にある指定障害者支援施設第2しょうせい苑に寄贈してきました。

第2しょうせい苑は、約70名の知的障害者に対して施設での入所支援、生活介護、短期入所支援、日中一時支援など様々な支援サービスを提供しています。

昨年の支援金贈呈の際、施設長さんから実は食堂で使われている普通のテーブルでは同じ知的障害者でも車椅子を利用する人には支障があることを伺いました。

その時は今ひとつピンときていなかったのですが、その年の3月に第2しょうせい苑にお邪魔して実際に食事をしている食堂を見せていただくと、通常食事は1つのテーブルに何人かが一緒に座って談笑しながら食事をとっているのですが、車椅子を利用される方はひとりひとりの体格や姿勢、使用している車椅子のタイプが異なることから、普通のテーブルでは安定した食事の姿勢が保てず、その人に合った専用の机で他の人とは別に1人で食事せざるを得ないということがよくわかりました。

もちろん職員が介助をすれば普通のテーブルでも食事は出来るのですが、第2しょうせい苑では苑の方針として、出来るだけ知的障害者でも自立した生活が送れるように食事も自力で行う様にしていくそうです。

そのため普通の複人数で使う食事テーブルは前方にあり、車椅子の方が使う専用の食事テーブルは後方入り口近くに一つずつ別々に置いてありました。

なるほど毎日1人で食事をするのは寂しいだろうと感じ、今回ロータリー財団の地区補助金を利用して「個別昇降テーブル」3台を寄贈することとしました。事業規模は総額で55万円。地区補助金から約37万円、クラブ資金から約18万円を支出して行いました。

その後、感染症対策の必要もあり人数を絞った5人のメンバーが食堂にお邪魔して、実際にそのテーブルを使用している車椅子の入所者の方と会って使い心地などを伺いました。

「個別昇降テーブル」は1つのテーブルが田の字に分割されていて、それぞれの高さが変えられるのでとても気に入っているとの事でした。

食事風景の写真を見ても分かるように、車椅子を使う人は使わない人よりテーブルの高さが少し高くなっています。また、車椅子を使う人同士でも少しずつ高さが違います。

知的障害者の方が出来るだけ自立した生活が送れるようにするには、健常者にはわからないこうした微妙な高さの違いが、出来るか出来ないかを決めていることに改めて気づかされました。

個別昇降テーブルのおかげで、車椅子を使う人も使わない人も一緒にテーブルを囲んで和気あいあい食事をする事が出来る様になりました。

4. 事業を終えて

今回の地区補助金事業を通じて、これからの障害者支援施設はただ普通に生活が送れる施設から、より快適で質の高い生活が送れる施設への進化が求められている様に感じました。

所謂、クオリティ・オブ・ライフ (Quality of life) です。

健常者もそうですが、障害者にとっても食事の時間は大切な時間です。

人生の中でも最も大切な時間の一つと言っても言い過ぎでは無いと思います。

その食事の時間がより快適で楽しい時間になることは、その施設での過ごす時間の質を向上させ、障害者にとってのこれからの人生をより前向きに生きて行こうとする意欲にもつながって行くものと考えています。

2. 松星苑ふれあい祭

10月11日に「第47回松星苑ふれあい祭」が開催されました。

新型コロナウイルス感染症防止対策のため5年間の中断を経て6年ぶりの開催になります。

徳山東RCからも11人のメンバーが参加し焼きそば販売の出店をお手伝いしました。

揃いの赤いジャンパーを着たメンバーの威勢のいい掛け声もあって、157食の焼きそばが1時間ちょっとの間に全部売り切れました。

私もチャッカリ自分の分を購入してお昼に美味しくいただきました。

3. 贈呈式

12月3日に第2しょうせい苑の会議室にて徳山東RCから34人のメンバーが参加し、クラブの例会を兼ねて贈呈式を実施しました。「個別昇降テーブル」3台は既に食堂に設置してあり、贈呈式は目録だけの贈呈となりました。





地区補助金事業報告〔下関RC〕 児童養護施設への調理器具の寄贈と口腔内ケア指導の実施

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 下関RC ロータリー財団委員長
鬼村 昌宏
(下関RC)

保護者のない児童、虐待されている児童など、環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設であり、山口県下関市において、本園の下関大平学園、分園であるたいへい稗田・たいへい山の口の3施設を運営している『社会福祉法人下関大平学園』様へホットプレート3台、レンジ1台、オープンレンジ1台、電磁調理器1台、食器類240ヶの寄贈と、当クラブメンバーの歯科医師による口腔内ケア指導の実施を行いました。

本事業内容に至った理由は、当該施設職員との事前にも面談を行い、児童養護施設の事業内容や、充実した調理器具を設け、同年代児童の家庭環境に近づけることで親元を離れて生活する児童達に食育に関する興味・関心を促したい、摩耗・老朽化した施設内で使用中の食器類等の買い替えを行いたい、という生活されている職員や児童達のニーズを確認し【施設内の調理器具・食器等を充実させ、同年代の児童達と同様に家庭的な調理の手段を与えることにより『食育』を学ぶ機会を作る】という目的を設定しました。

また施設内の設備を整えるだけでなく、当クラブメンバーの歯科医師により、主に歯磨きの仕方や咀嚼の重要性をメインとした口腔内ケア指導を行うことで、児童の健全な育成をサポートすることを目的としました。

寄贈品の贈呈式・口腔ケア指導を行った後には、入居されている児童達と当日参加したロータリアンで昼食会を開催いたしました。

昼食会場は当該施設の食堂をお借りして児童達とテーブルを共にし、普段施設で食べられているメニューを提供いただきました。

児童達と直接会話したり遊んだりすることで、様々な理由で親元を離れて暮らさなければならない児童達が当該施設では明るくのびのびと元気に生活している様を確認することができました。

後日、当該施設の職員の方から、寄贈された調理器具・食器等を利用することで児童達の食事に対する意識・意欲が向上し、食事量の少なかった児童にも改善傾向がみられた、とお話をいただき、本活動が『食育』に興味をもってもらえる有意義な活動となったと実感いたしました。

本活動内容は、当ロータリークラブ会員が代表取締役を務める『株式会社ケーブルネット下関 J:COM』様より児童が特定されないよう配慮して撮影していただき、当該施設の施設長と当ロータリークラブの会長のインタビュー内容とともに、地域のイベント・情報をお伝えする番組『ジモトトピックス』内にて放送枠を頂戴し、下関ロータリークラブの活動内容を地域住民へ周知することができました。





地区補助金事業報告〔福山RC〕

児童養護施設へテレビとポータブル・テニスネットを寄贈

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 福山RC 社会奉仕委員長

武河 隆司

(福山RC)

福山ロータリークラブ(RC)は2025年10月、福山市加茂町の児童養護施設「福山ルンビニ園」に、テレビとテレビ台4セットとソフトテニスのネット2セット(計約26万円相当)を寄贈した。

福山市中心部から北へ約20キロ。福山ルンビニ園は、標高約400メートルの同市広瀬地区に位置する。2009年4月、社会福祉法人「龍華福祉会」が設立した。

広瀬地区は典型的な過疎の山村だ。1970年代に1200人余りだった人口が、2020年には百数十人にまで減少している。急速な少子高齢化で地域に小中学校の維持が難しくなったことを背景に、地域の要望を受けて福山ルンビニ園を開設する運びとなった。

ルンビニ園では、保護者がいない、虐待されている、親の養育能力が不足しているなど、社会的な養護が必要な子どもたち20人前後(時期により変動あり)が「男女別」「小学低学年以下かそれ以上」の4ユニットに分かれ、生活している。門田匡史(もんでん・まさし)施設長は「親になる自覚も覚悟もないまま子どもを産む人が増えている。料理はしないし、しつけもしない。施設入所前の段階では、自分勝手にわがままで、人との付き合い方も分からない子どもが多い」と近年の傾向を話す。

ルンビニ園の小学生、中学生は全員が隣接する同地区の小中学校に通う。この効果もあって学校は維持され、2022年4月には、学校にうまくなじめない市内全域の子どもが入学・編入できる小中施設一体型の特認校「広瀬学園小学校・広瀬学園中学校」として再出発した。

福山ルンビニ園のことを知ったのは、私が代表を務める中国新聞備後本社の記者からの情報だ。地区補助金の対象にふさわしい施設を探しているとの話をした際に数件の紹介を受けた。福祉関係者から話を聞いたり、実際に施設を訪ねたりする中で、候補を絞り込んだ。

施設開設から15年が経ち、さまざまな箇所に経年劣化

が目立ち始めている。開設時に購入した各ユニットに置いているテレビ4台は故障しがち。施設で生活している子どもたちのほとんどが、スマホやゲームを所有しておらず、子どもたちにとってテレビは、唯一の娯楽であり生活の一部になっている。施設側も更新を強く望んでいた。

また、広瀬学園中学校は、ソフトテニス部が唯一の運動部活動であり、施設に入所する子どもたちの多くがソフトテニス部に入る。高校に進学してからも続けている生徒もいる。学校から帰った時間や休みの日に、園庭でソフトテニスの練習をするのが楽しみになっており、簡単に持ち運び、設置できるポータブルテニスネットを望む声が挙がっていた。

10月25日に同園で開催した贈呈式には、施設の子どもたちや職員、福山RC会員ら約20人が参加。福山RCの昼田哲士会長が門田施設長に目録を手渡した。昼田会長は「みなさんの笑顔に元気がもらえる。毎日の集団生活をさらに充実させてほしい」と声をかけた。入所している子どもたちを代表し、神辺高校3年松岡優真さんが「学校から帰ると、食堂に新しいテレビが置いてあって、本当にうれしかった。テニスネットは簡単に折りたたみができて、みんなのテニス熱が、さらに盛り上がる。全員で楽しみたい」と感謝を述べた。

子どもたちは早速、施設横の広場でネットを広げ、笑顔でボールを打ち合っていた。また、子どもたちとロータリアンが一緒になって施設周辺約3キロのごみ拾いウォークを開催。秋空の下、交流を深めた。

厳しい生活環境の子どもたちを地域社会全体で守り、安心・安全に暮らせる環境を維持していくことは、地域の責務である。やがて、子どもたちが施設を「卒業」し、地元で活躍してくれることを願うし、それこそが持続可能な地域実現の一步につながることを期待したい。





地区補助金事業報告〔広島西南RC〕

広島県廿日市特別支援学校 阿品台分校へのイベント協力事業

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 広島西南RC 社会奉仕委員会

鍵岡 馨

(広島西南RC)

今年度、広島西南RCでは令和6年4月に開校した広島県内で初めて普通高校(廿日市西高等学校)内に併設された廿日市特別支援学校阿品台分校(廿日市市阿品台6-1 川口数巳分校長)への物品寄贈の地区補助金事業を実施しました。同校は廿日市特別支援学校の生徒数の増加に伴って昨年6月、「廿日市西高等学校内」に高等部単一障害学級の生徒103人が移動し新たな学び舎「阿品台分校」として開校されました。11月29日(土)に開催された阿品台分校第1回文化祭に合わせて、同高に物品(イベント用パラソル4本、テーブル4台、イベント用看板2セット、のぼり2セット等)を寄贈し、作業学習販売実習における「おもてなしカフェ」の運営を支援しました。事業を準備する段階で学校関係者への聞き取りを行った結果、学校の授業では体験することができない生徒と学校外との接点をつくり、お互いを知り合う機会の提供が必要であると感じ、物品の寄贈だけでなくロータリー会員との交流をすることも目的とし、社会奉仕委員会から会員に文化祭への参加を広く声かけしました。文化祭の当日は、当クラブから19名、衛星クラブから2名の総勢21名が参加。ステージ発表、寄贈品贈呈式、おもてなしカフェの運営支援を行いました。生徒たちは当日の運営にむけて、2週間前から販売実習を行われたそうです。具体的には、コーヒーの淹れ方、コーヒーカップの蓋の仕方、コーヒーフィルターの交換など、最初から最後まで工程を学び、実体験しました。担当の先生からは、「コーヒーを淹れるのは、徐々に慣れてできるようになるのですが、カップに蓋をはめるのがとても難しい作業」ともお聞きしました。販売時間を15分間ごとに、3年生、1年生、2年生の順で、コーヒーを提供。「おもてなしカフェ」コーナーは、人気ブースだったのでお客様が30人ぐらい長蛇の列となりましたが、練習の成果もあり何事もなく美味しいコーヒーを提供すること

ができました。気温も下がり、少し肌寒い1日だったので、生徒たちの淹れる心温まるコーヒーは大好評。おもてなしカフェには、同校の卒業生や保護者のほか、地域にお住まいの方など多数の来場者が詰めかけてくれ、生徒たちとのコミュニケーションも取れて青春の1ページを刻むことができました。また2026年1月には、広島西南RCの例会卓話に、川口校長先生をお迎えし、お礼とカフェの運営に参加した生徒さんから文化祭を振り返っての感想をいただきました。「ご馳走様でした、おいしかったですと言っていたいただきともうれしかったです」「来年もまたやるのなら、カフェの接客を試みたいです」「次回もバックヤードでコーヒーづくりをしたいと思います」「来年度の文化祭では後輩がわからないことを教えてあげたり、笑顔で接客をがんばります」と最初はとても緊張されていましたが、最後は笑顔で会話も弾みしっかりしたサービスができていました。学内での寄贈品の活用についてもお話しいただき、文化祭当日のおもてなしカフェで寄贈したウッドデッキのテーブルとパラソルは校舎に囲まれた広い中庭に設置され、休憩時には生徒たちの憩いの場として利用していただいています。今後も広島西南RCとして地域を巻き込んでの奉仕事業は、積極的に取り組んでいけるよう活動を続けていきます。



30人以上の長蛇の列

コーヒーづくり



ソフトドリンク提供



おもてなしカフェ



ステージ鑑賞



地区補助金事業報告〔広島城南RC〕

児童心理治療施設へ椅子とテーブルを寄贈し、交流の場を提供

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 広島城南RC 財団関連委員会 理事

平井 篤志

(広島城南RC)

広島市こども療育センター愛育園は家庭環境、学校での交友関係その他の環境上の理由により社会生活への適応が困難となった児童を短期間入所させ、または保護者のもとから通わせて、社会生活に適応するために必要な心理に関する治療及び生活指導を行うことを目的としている「児童心理治療施設」です。

当クラブは、昨年度地区補助金を利用し愛育園にパソコン1台とタブレット2台を寄贈し、ITリテラシー向上のための講座を実施しました。

その後現在困っていることをヒアリングしたところ、食堂の机と椅子が老朽化し、座面が破れクッション材が露出しているもの、ガタツキがある椅子があり集中力の妨げになっている、椅子が重く移動に支障をきたしている、買い替えを要望しているが予算がつかずなかなか実現しないことをお聞きしました。

食堂は単に食事を提供する場所だけではなく、こどもたちの憩いの場として、また他者とのふれあいや交流の場として活用されています。その食堂の環境を改善し少しでも快適な場にすることがこどもたちの発達に寄与するのではと考えました。

そこで机2つと椅子32脚を寄贈することとし、その机と椅子を利用して災害時の非常食の炊飯・調理体験と試食会を行う事業計画を立案し承認を受けることができました。

新年度に財団担当理事に任命され事業を担当することとなりましたが、今まで企画立案の経験がほとんどなくどのように進行すればよいかさっぱりわかりません。とりえず愛育園の副園長と打ち合わせし寄贈式の日程を決めました。

イベントの準備や進行を妻に相談しました。彼女は中学校の支援学級で非常勤講師をしておりこどもたちの興味や関心をひく授業の経験が豊富です。

すると「食」のイベントはおすすめできないと指摘されました。食物アレルギーや食中毒に大変気をつける必要があること、室内で行う場合はコンロや食器の有無や動線など準備やチェックが膨大となるからです。愛育園からも食の好き嫌いが多いうちがおり、また夕食が食べられなくなるかもと懸念を示されました。こどもたちに普段あまりできない体験をさせてあげたいとの要望ができました。

他のイベントを検討することとなりましたが、これといったものが浮かばず頭を抱えてしまいました。

ある晩、妻との会話で「授業で雪だるまのクリスマス

カードを作ったら生徒が楽しんでいた」と聞き、「これは使える!」と準備や進行などを聞き出しました。「できるの?」「う〜ん…手伝って!」準備と当日の講師を依頼し、おこづかい進呈を条件に引き受けてもらいました。

寄贈式当日にはクラブ会員・関係者が12人参加しました。会長あいさつと愛育園園長、こども代表のお礼の言葉や感謝状の贈呈などプログラムが進行し、クリスマスカード作成がスタートしました。

最初に講師がホワイトボードに手順を記載し説明を行いました。

そのあと会員や愛育園の指導員がそれぞれこどもたちのテーブルに座り、会話をしながら一緒にクリスマスカードを作り始めました。こどもたちは目を輝かせながらワイワイにぎやかにカードを作っておりとても楽しそうです。おとなもこどもに負けず真剣に楽しく取り組み童心に帰ったようでした。

時間内に無事完成させ全員で記念撮影をしてイベントは無事終了しました。

翌日愛育園からお礼のメールをいただきました。

「知らない人とのふれあいに難しさを抱える子どもも多いのですが一緒にモノづくりをする中で少しずつ緊張が解けていったようで貴重な機会になりました。また、交流イベントを経験してこの方たちにいただいたのだと実感がわいたようです」とあったのが印象的でした。

奉仕活動を行うには相手方のニーズをくみ取ったうえで十分にコミュニケーションをとり、お互いに「顔の見え」奉仕を行うことが重要と実感しました。





地区補助金事業報告 [福山丸之内RC] ベトナムの小・中学校へパソコンを寄贈

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 福山丸之内RC 国際奉仕委員長
坂谷 裕
(福山丸之内RC)

昨年に続き今回は、9月4日から7日までの3泊4日で、福山丸之内ロータリークラブ会員7名と、当クラブがお世話をしている米山記念奨学生グエン・トゥ・トゥイさん(ベトナム人)の合計8名で、ベトナム・ハナム省ニャンミイ村のニャンミイ中・小学校へデスクトップパソコンと文房具等の寄贈式に参加しました。

前回に続きクラブ会員が事前に現地を訪れ、学校の先生方にヒアリングを実施し検討した結果、同校のデスクトップパソコンが陳腐化や故障で困窮している旨の申出と寄贈要望があり、デスクトップパソコン8台と文房具等を地区補助金を使って、寄贈することにしました。

ニャンミイ中・小学校は、ハノイ市内から東南方向に、バスで約2時間の所にあり、中・小学生合わせて約120名の小規模な学校です。

寄贈式典には、学校長・教員の外 共産党将軍、地区の共産党書記長、警察署長、教育委員会委員長など行政の責任者らが出席され、最初に私が、団長として事前に勉強した、ベトナム語をまじえながら、寄贈趣旨の挨拶を行い、学校長の感謝の挨拶の後、出席者全員の(クラブ会員もベトナム語を交えた)、自己紹介と挨拶を行い、大いに友好モードが盛り上がりました。また地元新聞記者から取材を受け、一面トップで寄贈式典や子供たちとの交流の様子が、地元の新聞紙面やネット記事に掲載されました。

学校関係者は、我々を迎えるに当たっては、民族衣装の色鮮やかなアオサイでお迎えいただき、寄贈式典の雰囲気

気を盛り上げて頂きました。

また、寄贈式典の後は、教師と子供たち40名に対し、米山記念奨学生グエン・トゥ・トゥイさんが、日本文化の紹介をクイズ形式で行ったり、会員らも持参した剣玉等で子供らと遊ぶなど楽しく交流しました。

地区補助金事業終了後、福山丸之内ロータリーの例会プログラムにおいて、写真、動画、エピソードを交えながら、オープン例会を含め3回実施し、クラブ会員や外部ゲスト・ビジターロータリアンに向けて、事業内容を共有することにより、今後我々ロータリアンが国内外で奉仕活動を行う上での、一人一人の意識を高める貴重な機会となりました。

後日、ニャンミイ中・小学校から、子供たちが最新のパソコンを使用して、今までとは違う学習方法で、さらなる教育の向上に役立っていると、感謝の連絡がありました。

今回のパソコン寄贈プロジェクトを通じて、ベトナムの学校の教育環境改善に貢献することができたことと同時に、最も大切なことは、子供たちの将来の夢と希望を育むことの一助になることを願っています。

最後に、今回の地区補助金事業に関係された、地区の委員会をはじめみなさま方に感謝いたします。





～還暦を迎えて～

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ガバナー
土肥 慎二郎

2025年12月21日、私は還暦を迎えました。

これまで大きな病気もせず、丈夫な体に産んでくれた両親、そして関係するすべての方々に感謝したいと思います。と同時に、これからの人生をもっと楽しみたいと思います。

で、その日はちょうど当地区の青少年交換プログラムのクリスマス会でした。

「赤いちゃんちゃんこ」ではなく、サンタクロースの格好で、少しスベリましたが、楽しい時を過ごすことが出来ました。



藤本さん、八條さん、たくましくなって帰ってこられましたね。

(ガバナー月信 Vol.5 [11月号]をご参照ください)



Rimさん、Jackさん、まだ4か月しか経ってないのに日本語が上手くなったね！

あと半年、楽しんでください。



繁田(はんだ)さん、小尻さん、これから準備して8月からの留学生活を楽しんでね。

これから不安とか焦りとか、いろいろあるかもしれないけど頑張って下さい。

そんなことを思いながら、のんびりとした時間を過ごした60回目の誕生日でした。





ロータリー青少年交換プログラムは、「青少年の国際理解と親善の精神を育み、平和の構築と維持に不可欠な異文化理解能力の養成」を目的としたプログラムです。

ロータリーがこのプログラムを始めてから半世紀が経過しました。

当地区において、これまで多くのクラブがこのプログラムに参加して下さいましたが、最近では1年度期に2名という状況です。

ホストファミリーや学校の問題、クラブの負担、留学

に関わるリスク管理、その他いろいろとクリアしなければならないプログラムですが、若者の成長した姿を見ると、とてもインパクトのある(人生を変えうる)ものだと思います。

最後になりましたが、ホストクラブ、ホストファミリー、学校関係者、保護者の皆様、地区委員会の皆様、そしてこのプログラムにご理解をいただいております地区内ロータリアンの皆様方に感謝を申し上げます。

Let's Enjoy Rotary!!





地区ローターアクト「第2回地区協議会」報告

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ローターアクト代表
藤岡 小雪
(広島RAC)

去る1月17日土曜日、福山市民参画センターにて、地区ローターアクトの「第2回地区協議会」を開催しました。本協議会は今年度の折り返し地点として、上半期の歩みを振り返るとともに、次年度に向けて新たなビジョンを共有する重要な機会となりました。

上半期活動報告では、各クラブの特色が光る例会と奉仕活動の内容を振り返りました。広報面ではInstagramの積極運用に加え、本ガバナー月信を通じた情報発信を継続し、アクターの熱意を広く届けることを再確認しました。また、私が各クラブを訪ねた「公式訪問」では、福山での懇親行事、広島での平和学習、徳山での地域産業見学、広島大学での学生主体の親睦行事と、それぞれの地域色豊かな温かい歓迎を受けました。これらの交流を通じ、単なる親睦を超えた「地区としての連帯感」が確実に育まれていることを肌で感じることができました。奉仕活動では、8月の加納虹輝杯(フェンシング大会)の運営支援や11月の下関海響マラソンでのエンドポリオのPR活動など、今年度から新たに始めた活動を展開しました。ロータリアンの皆様のご指導のもと、現場で「奉仕の精神」を体現する経験は、私たちアクターにとって何物にも代えがたい成長の糧となっています。

下半期の活動予定を改めて確認した後、原郁哉地区代表エレクト(広島中央RAC)より、ビデオメッセージで2026-27年度の活動重点施策が発表されました。次年度は、地区ローターアクト年次大会が50回目という大きな節目を迎えます。これを見据え、韓国3690地区と

の「国際交流の活性化」や、地区史上初となる大学基盤クラブ(広島大学RAC)がホストを務める「年次大会の開催」といった、次代を切り拓く野心的な計画が示されました。さらに各種会議の名称を変更し、リーダーシップ研鑽の場としての機能を高める案も提示され、ローターアクトがより自立した専門性の高い組織へと進化していく道筋が明確になりました。

また、本協議会のメインプログラムとして、「全国RAラーニング・ショート動画グランプリ」に提出する動画を撮影しました。会場では、広島RACが中心となって制作した1本目の動画「忙しい社会人がRACを続けられる理由」を全員で視聴し、等身大のアクターの姿をいかに発信するかを学びました。続く2本目の動画「この瞬間、やってよかったと思った場面」の撮影では、参加者全員がカメラの前に立ち、結束力を見せました。デジタルツールを活用したこの新たな試みは、まさに今年度の地区ターゲット「CHANGE!!!!」を象徴する、活気と笑顔にあふれた時間となりました。

本協議会のホストを担った福山RACの皆様、そしてご多忙中ご臨席賜り、激励の言葉を寄せてくださいました土肥慎二郎ガバナーをはじめとする地区役員の皆さまに、厚く御礼申し上げます。私たちアクターは、ロータリアンの皆様が築いてこられた伝統を指針としつつ、若者らしい柔軟な発想で「変化」を恐れず挑戦を続けてまいります。今年度残り半年、そして次年度へと続くこの歩みを引き続き温かく見守り、導いていただけますようお願いいたします。



国際ロータリー第2710地区 — 2025-26年度 新会員紹介 —



高橋 彰
下関中央RC
2026年1月9日
塗料卸売販売業



藤上 博之
下関中央RC
2026年1月9日
税理士



中本 喜弘
美祿RC
2026年1月13日
県議会議員



久次 幸夫
宇部RC
2026年1月8日
合成高分子



山内 亮太郎
防府RC
2026年1月19日
保険業



秋山 美津子
防府RC
2026年1月19日
保健師



渡辺 淑仁
山口県央RC
2026年1月6日
生命保険



笹川 純男
徳山セントラルRC
2026年1月26日
液化石油ガス販売



山下 江
広島北RC
2026年1月29日
商事弁護士



林 能隆
大竹RC
2026年1月20日
設計コンサルタント



上田 恵
広島中央RC
2026年2月2日
事務代行業



有田 智実
広島廿日市RC
2026年1月19日
建設業



酒井 正和
広島東南RC
2026年1月19日
不動産仲介



木原 全弥
広島西南RC
2026年2月3日
建築塗装業



堀田 隼人
呉東RC
2026年1月7日
建具工事業



高橋 明久
西条RC
2025年7月3日
電気事業



重松 洋平
西条RC
2025年8月7日
生命保険



藤原 恒太郎
三原RC
2026年1月20日
総合病院



鶴岡 和行
福山RC
2026年2月2日
旅行業



藤原 まどか
松永RC
2026年1月10日
管工事業



中根 範之
松永RC
2026年1月10日
水道工事業

謹んで哀悼の意を表します

故 登坂 正子 殿
周南西RC
2026年2月4日 ご逝去
(享年78歳)
【職業分類】
内科医
【ロータリー歴】
マルチプルボールハリスフェロー

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度会員増減・出席率(2026年1月度)

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月		本年度	
				末日	内女性	入会	退会
1	長門	85.03	25	25	3	1	1
	下関	72.94	43	45	2	2	0
	下関中央	68.86	38	42	7	4	0
	下関東	69.71	65	66	6	3	2
	下関北	72.45	58	58	4	1	1
	下関西	81.02	33	31	0	0	2
計	75.00	262	267	22	11	6	
2	萩	78.51	42	40	3	1	3
	萩東	85.23	25	23	1	0	2
	美祿	71.60	18	21	1	3	0
	小野田	82.65	31	37	4	8	2
	宇部	94.66	38	39	5	3	2
	宇部東	74.87	9	9	1	0	0
	宇部西	86.05	49	50	6	1	0
計	81.94	212	219	21	16	9	
3	防府	90.97	57	59	3	3	1
	防府北	83.81	22	22	3	1	1
	防府南	86.04	44	45	9	1	0
	山口	79.06	44	48	5	5	1
	山口県央	86.70	24	26	2	2	0
	山口南	93.26	42	41	7	0	1
計	86.64	233	241	29	12	4	
4	光	77.90	52	53	5	2	1
	周南西	82.50	57	58	7	3	2
	徳山	99.25	40	43	2	5	2
	徳山セントラル	79.62	20	22	3	2	0
	徳山東	100.00	42	42	2	0	0
計	87.85	211	218	19	12	5	

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月		本年度	
				末日	内女性	入会	退会
5	岩国	75.69	66	67	1	2	1
	岩国中央	86.64	38	38	6	1	1
	岩国西	85.09	64	65	6	2	1
	柳井	89.49	25	24	1	0	1
	柳井西	98.92	26	26	6	0	0
	計	87.17	219	220	20	5	4
6	広島	99.56	123	131	3	13	5
	広島安芸	99.72	33	34	4	2	1
	広島安佐	82.25	13	18	3	6	1
	広島東	96.39	108	125	14	18	1
	広島北	93.66	102	103	0	2	1
	広島陵北	96.67	44	46	4	4	2
	大竹	86.40	24	26	0	2	0
計	93.52	447	483	28	47	11	
7	広島中央	100.00	62	67	5	7	2
	広島廿日市	86.51	24	21	2	1	4
	広島城南	100.00	40	39	3	1	2
	広島南	100.00	86	88	0	4	2
	広島東南	100.00	84	85	12	4	3
	広島西南	99.49	77	77	5	3	3
	広島西	99.51	92	93	7	2	1
計	97.93	465	470	34	22	17	
8	江田島	92.27	17	16	0	0	1
	東広島	82.29	23	25	3	2	0
	東広島21	88.46	21	21	3	1	1
	呉	85.10	71	70	5	0	1
	呉東	75.98	34	36	3	2	0
	呉南	92.18	43	44	1	1	0
	西条	99.63	44	46	1	2	0
広島新世代	47.10	0	22	3	22	0	
計	82.88	253	280	19	30	3	

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月		本年度	
				末日	内女性	入会	退会
9	広島空港	82.06	28	27	4	0	1
	因島	93.49	14	14	0	4	4
	三原	88.58	49	50	1	2	1
	尾道	74.35	77	78	2	1	0
	尾道東	87.12	47	48	7	3	2
	計	85.12	215	217	14	10	8
10	府中	85.53	14	14	2	0	0
	福山	93.85	85	83	2	4	6
	福山東	77.34	32	34	2	5	3
	福山丸之内	88.13	22	22	1	0	0
	鞆の浦	73.81	15	15	0	0	0
	福山REC2710*	100.00	7	7	1	0	0
計	86.44	175	175	8	9	9	
11	福山赤坂	82.53	52	52	4	1	1
	福山北	91.84	32	30	2	0	2
	福山南	71.28	56	58	4	3	1
	福山西	86.81	40	38	4	2	4
	松永	95.48	54	55	8	2	1
計	85.59	234	233	22	8	9	
12	吉舎	93.52	9	9	0	0	0
	三次	72.37	40	42	1	2	0
	三次中央	93.00	33	32	5	0	1
	庄原	90.69	26	25	2	0	1
計	89.76	122	121	8	2	3	
第2710地区計	86.23	3048	3144	244	184	88	

*正式名称「福山ロータリーEクラブ2710」



2026年台北国際大会

2026年6月13日－17日

<台北ドームにて開催>

2026年6月14日 (日) 開会式 (午前・午後の2回)
 2026年6月15日 (月) 全体会議 (午前)
 2026年6月16日 (火) 全体会議 (午前)
 2026年6月17日 (水) 閉会式 (午後)



登録はこちらから↑

「全体会議以外はこちらで開催」
 <台北南港第1・第2展示ホール>
 (受付、セッション、友愛の家、昼食)
 住所：11568
 台北市南港区経貿二路1号、2号



【2026年台北国際大会チーム】

2026年台北国際大会RI推進委員
 日本チーム
 出村知佳子 第2510地区札幌北RC
 chikakodemura@gmail.com

第1地域 岡村睦美 第2770地区 川口RC
 第2地域 吉川公章 第2760地区 名古屋南RC
 第3地域 大橋秀典 第2660地区 東大阪東RC



登録カテゴリー/ 登録日	2025年12月16日～2026年3月31日の登録	2026年4月1日～6月17日の登録
クラブ会員、非会員、31歳以上のゲスト	US\$575	US\$675
クラブ会員、RAC会員、非会員、30歳以下のゲスト	US\$225	US\$275
5～18歳のゲスト	US\$30	US\$40
5歳未満のゲスト	無料	無料
土曜日の友情の広場 (House of Friendship) のみ参加	US\$60	US\$100



国際ロータリー第2710地区 事務局
 TEL:082-506-0055 FAX:082-263-2323

〒732-0822 広島市南区松原町1-5 ホテルグランヴィア広島6F
 E-mail:info@ri2710.com URL:https://ri2710.com/